

日本

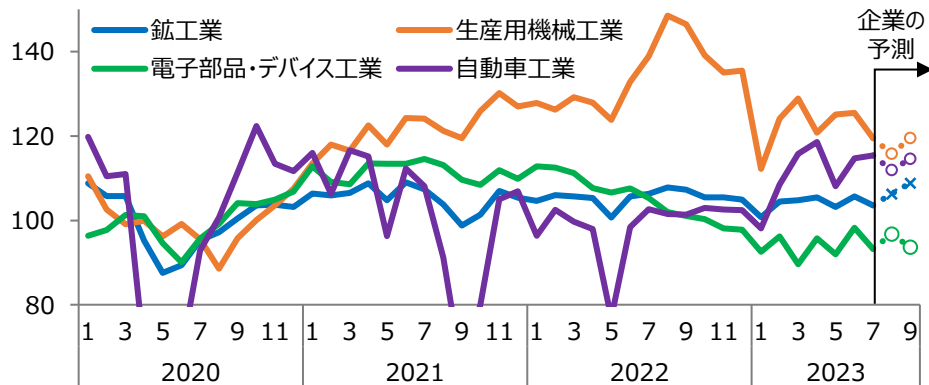
鉱工業指数（2023年7月）

生産は一進一退の推移、海外経済減速の逆風続く

政策・経済センター
堂本健太
03-6858-2717

1 鉱工業生産指数（業種別）

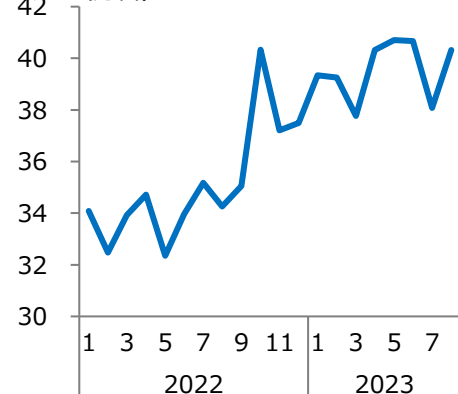
(2020年=100)



注：企業の予測について、鉱工業は製造工業、自動車工業は輸送機械工業の生産予測指数を接続。
出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」より三菱総合研究所作成

2 新車販売台数

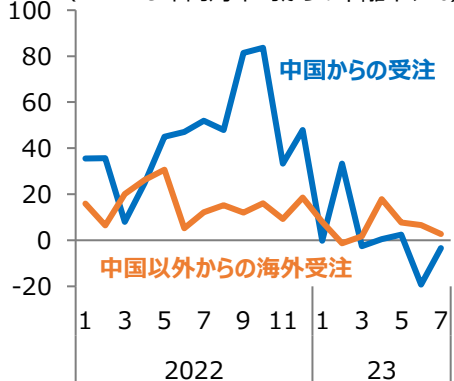
(万台)



注：当社試算の季節調整値。
出所：日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会より三菱総合研究所作成

3 海外からの工作機械受注額

(17~19年同月平均からの乖離率、%)



出所：日本工作機械工業会「工作機械統計」より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 7月の鉱工業生産指数（季調値）は、前月比▲2.0%と、2カ月ぶりに低下した（図表1）。経済産業省は、基調判断を「緩やかな持ち直し」から「一進一退」に下方修正した。
- 業種別にみると、生産用機械工業（前月比▲4.8%）や電子部品・デバイス工業（同▲5.1%）など15業種中10業種で低下した。一方、自動車工業（同+0.6%）は部品の供給制約緩和から上昇傾向が続いた。

基調判断と今後の流れ

- 生産は、一進一退の動きが続いている。
- 先行きについて、自動車生産は受注残への対応から高水準での推移が続くだろう。もっとも、海外経済の減速が幅広い業種の生産に対して下押しとなり、生産指数は当面横ばい圏で推移するとみる。
- 国内新車販売台数は8月前月比+5.9%と3カ月ぶりに増加した（図表2）。一部自動車メーカーの部品調達先で火災が発生したことから、7月は一時的に販売・出荷（自動車工業の出荷指数7月前月比▲6.7%）が下押しされた模様だが、自動車需要は依然強い。
- 一方、中国を筆頭に海外経済の減速による悪影響は懸念事項だ。海外からの工作機械受注は、足許で減速傾向を強めており、中国からの受注は過去（17~19年平均）対比でマイナスに転じている（図表3）。中国の製造業PMIも8月まで5カ月連続で中立水準の50を下回っており、中国経済の回復の遅れは輸出の停滞を通じて国内生産の下押し要因となる。
- なお、8月の生産は生産予測調査（前月比+2.6%）よりも下振れする可能性が高い。経済産業省は、生産予測から実績への修正傾向を考慮すると、8月同▲1.4%の低下になると試算している。加えて、8月29日には大手自動車メーカーにおいて、システム不具合から全工場の稼働が停止し（翌日以降順次生産再開）、生産を下押ししたとみられる。